愛國婦人會機關　臨時增刊に付き特に讀者諸君に進呈す

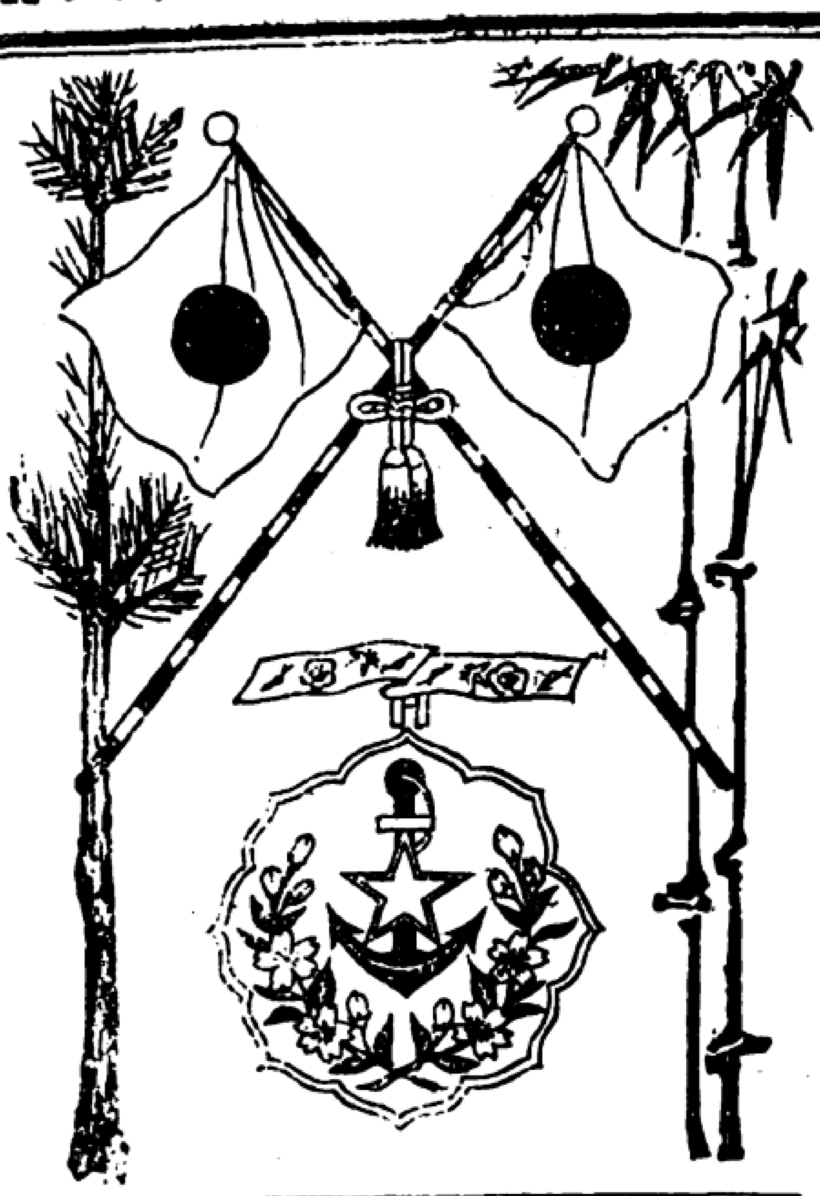
愛國婦人

每月十日廿五日發行

（定價）一枚金五錢、一ヶ月分七錢、三ヶ月貳拾壹錢、半年分四拾貳錢、壹ヶ年分八拾四錢、全國無遞送料、郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麴町區下二番町三十七番地大日本女學會內　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

電話番町壹千三百三十番



恭賀新年

大御代の年の始、春めきて長閑に覺えるを、其例にもれぬ各地會員の君方、御けしき麗しう、御齡を重ねさせ給ふらむと、めでたく存上げ候。われら一同事なく年を迎へ候まゝ、御心やすく思召させられたく候。扨もわが愛國婦人會、日に月に隆盛に赴き、入會者既に貳萬有餘人に及び候。是れ全く聖代の恩澤と、御許樣方の熱心なる盡瘁とに由りて、斯くも盛に相成候事と、邦家の爲、深く感佩仕候。なほ此上ながら、今年はまた去年にも增して、いそしみつくさせ給ひ、渥き大御惠にこたへ奉られむことを希ひ候。めでたくかしこ。

明治三十六年一月一日

愛國婦人會理事　子爵夫人　谷玖滿子
同　侯爵夫人　鍋島榮子
同　侯爵夫人　大山捨松子
同　公爵毛利元昭母　毛利安子
同　公爵夫人　島津田鶴子
同　公爵夫人　近衛貞子
同　公爵夫人　德川泰子
同　公爵夫人　一條悅子
愛國婦人會會長　公爵夫人　岩倉久子

道廳各府縣愛國婦人會支部
幹事長御中
幹事御中
會員御中

◎軍艦淺間航海記事（一）

相談役　海軍少佐子爵　小笠原長生

軍艦淺間及び高砂の二隻は、伊集院海軍少將の指揮の下に艦隊を組んで、英國皇帝皇后兩陛下の戴冠式に參列のため渡英致して、昨年十一月廿八日橫須賀に歸着したのでござりまするが、航海中の事を何か御話するやうに佐藤少將から御依賴がありましたから、それで今般當愛國婦人の紙上を拜借するとに致しました。併し婦人會で軍艦の航海記事を述べると云ふのは如何にも緣遠い懸隔たッた事のやうであるが、それにも拘らず私が喜んで申述べるのは、大に感じた事があるからで、豫てより英國婦人の氣質に就ては聞及んだ事もござりましたが、此度親しく實見して愈よ英國の今日あるは婦人の覺悟與ッて力ある事、云ひ換へれば英國婦人の海事思想と其國運の隆盛とが非常なる關係を持ッて居ると云ふとを確め得たのである。一例を申しますと、私が英國滯在中に、或る園遊會で一貴婦人と種々談話を試みた際に、其婦人が私の勳章を見て「貴方は黃海の大海戰に御出になりましたか」と問ふから「幸に居りました」と答へると「何と云ふ軍艦に御乘組でしたか」と問ふた、そこで「高千穗といふ軍艦です」と云ふと「それはたしか遊擊隊の中でしたね」と云ッた。此一言で既に私は非常に驚いた、實に能く注意して居るものだと思ッたら、夫から種々な事を問ひ始めた。兩軍の勢力は如何であるか、陣形は如何であるか、結果は如何であるかと云ふやうな事を、熱心に聞くのみならず、時々批評を試みるのである。私は英語に不熟練な上に、黃海々戰から餘程年月を經て居るので忘れた所もあるし、中には答に窮して閉口致しました。自國に關係のない外國同士の戰爭を、然も婦人の身で斯程迄に研究するかと思ふと、敬服の外はないのである。甚だ失禮な事を申すやうではあるが、日清戰爭が了ッて歸朝した當時、所々で戰爭の樣子を問はれたが、中には位置のある男子でも隨分馬鹿〳〵しい、御話にならぬ樣な質問をして、思はず私をして失笑せしめた方も無いでもない。之とは反對で此英國婦人の問ひは如何にも要領を得て、恰も軍事專門の新聞記者にでも質問さるゝ樣な心地が致しました。尤も英國でも凡ての婦人が悉く斯の如くであるとはいへないが、兎に角一般に餘程海事思想に富んで居る。申すまでもなく我帝國は英國に酷似て居る國柄で、海と云ふとは唯一の寶であるから、是非とも英國のやうに一般の海事思想、就中婦人方の海事思想即ち冒險的修養を私は望んで已まぬのである。斯の如き議論をすると、或方面からは必ず婦人方を御轉婆にするのだと云ふ攻擊が出るであらうが、冒險的思想は精神の活動から起るので、御轉婆と一つにされては堪らない。當愛國婦人會が天下に先だつて隨分種々な障害があつたにも拘らず、毅然として戰死者の遺族を救護する目的を貫かれ、貴顯の婦人方が每に集合されて親しく事務を執らるゝと云ふのも精神の活動で、最初の障害に少しも屈せられず、或新聞などでは忌はしい風說までしたのを顧みないで猛進されたのは、云はゞ一種の冒險ではあるまいか。であるから私は自分から進んで今般の航海記事を申上ぐるので御座ります。

（會長公爵夫人岩倉久子筆）

今一つ申上げ置きたいのは、やはり英國滯在中の事で、御承知でもあらうが英國の貴族殊に貴族の婦人方は最も意を慈善事業に用ゐて社會の調和を保つて居る。英國に不平黨の少く社會が貴族に對して敬意を表するも此力である程で、澤山の慈善事業がある。私も貧民を御馳走して居る席に司令官に隨て見に往つた事があるが、貴族の夫人令孃達が前垂をかけて親しく其席を周旋して居つて、それは〳〵深切を極めたものである。斯の如く婦人達は慈善に熱心であるから、私達と話をするときも直に慈善の話が出て、貴國でも單に婦人方許りで組織されて居る慈善の大會があるかと屢ば問はれた。その時には每に私は第一番に愛國婦人會の事を持出して大に誇つてやりましたが、もし此會がなかつたなら實に恥入る樣な場合もあつたので、此一事は殊に今般の御土產として幷せて御禮を申します。これから航海の事を述べる。

刺繡意匠當會員武村耕靄女子筆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

愛國婦人會と軍人精神養成の關係に就て

相談役　陸軍步兵少佐　堀內文次郎

日本に於ける、國家的慈善事業中、私共が最も感動に堪へない、又最も眞面目であると信ずるものは、實に此愛國婦人會の事業、及び同會員たる夫人令孃方の御心掛であります。此眞面目なる會員諸君の赤誠を込めらるゝ、廣大なる慈善事業が、日本軍隊に如何なる反應を引起し、軍人精神養成上に、幾何の効能を現はすかは、軍隊以外の人には恐く想像も及ばぬ位でありませう。私は此愛國婦人會が、軍人精神養成上に及ぼす一端を示さんが爲に、今年初刊の軍人精神養成の機關雜誌『大和魂』に掲載せる、講話の要旨を此に摘載し、會員諸君の御參考に供さうと存じます。

日本道德行爲と、廣大なる慈善意思とに依り、日本帝國に、最も堅確の美風俗を造らんとするものは、眞面目なる此愛國婦人會の夫人令孃方なり此夫人令孃方は、恰も一種の新教に依りて連結せる如く、「國の爲め」なる觀念に歸する、正大なる思想に依りて、互に結び結ばれつゝ、日に月に此愛國婦人會は、盛大に向ふなり。軍隊の方面より謂ふときは、軍隊の後援者として任ずる、愛國婦人方は、此如の同情、如此の根本的至大の思想を以て、出來得る限りの助力を軍隊に送らんとしつゝあり。其同情の一端は、

掛卷も畏き吾が皇國の御楯となる軍人たち、戰場に臨みて、或ひは彈丸に碎かれ、或ひは癘氣に斃るゝに當り、是の國民として其の功に報ゆるには、自づから種々の方法あるべしと雖も、生計困難なる遺族の救助こそ最も先にすべきものなれ。抑も我が帝國曩に征淸の役あり、去夏復た兵を北淸に出だしゝに、忠勇義烈の軍人は命を鴻毛の輕きに比して、雨なす彈丸の下に身を拋ち、劔なす氷の床に夜を守り、名譽の戰死を遂げ、不起の病に罹り、異域の鬼となれる者果してそれ幾ばくぞ。されば公けにも深く之を憫みおぼして、つぶさに救護の道を盡させ給へり。然れども公けの救ひの手には限りありて、救はれ人は數限りも無し、あはれ頭に霜を戴ける翁の子を先立てたる、譬ひゐざりだにしあへぬ兒の親に後れたる、あるは夫に別れ兄に離れて衢にさまよへるともがら、擧げて枚ふるに遑あらざるべし。之を救ふの方法將たいかにかすべき、博愛に富み慈善を旨とせる巾幗社會の力を協せて、以て是等の遺族を賑恤するにしく者無からん。

の、愛國婦人會創立の趣意書に依りても、能く解るのであります。然かして、此趣意を實行するに、卒先誘導せらるゝ方々の中、其御奮勵、其御熱心に、何人も感服せざるものなきは、會長岩倉公爵令夫人なり。其御思想の勇壯にして高尚なることは、

女とてなにかなげかんほど／＼に
　身を盡すべき道はありけり

國のため世のため盡くす眞心は
　男女のへだてなからん

の御述懷に依りても想像するとが出來ませう。又會員の中、最も熱心なる一人、中山幸子刀自の如きは、

秋の夜のあはれをうたふ虫の音も
　くつわむしのみいさましきかな

月毎にかずもかさみて見ゆるかな
　御國の爲に盡す人々

と勇壯なる同情を軍人に寄すると同時に、

寫眞附錄の人名（寫眞面の順序）

松前光子　後閑菊野子　鳩山春子　棚橋絢子　中山幸子　有島幸子　岩佐德子

濱尾作子　豐島文子　內山訓子　宇佐川種子　奥村五百子　山脇房子　佐藤靜子　山本たほ子　佐藤猶子

松平須磨子　關郁子　本多延枝子　柳谷千代子　千家後子　松前藤子　高木鏁子　伊集院繁子　清浦豐子　伊東美津子　神山萬佐子

岡部抵子　細川孝子　谷玖滿子　鍋島榮子　岩倉久子　毛利安子　近衛貞子　一條悅子　小笠原秀子

と雪の朝も、雨の夕も、本會の爲に、其老い病める身をも厭はで、あらん限りの力を盡されつゝあり。

次に私が、此婦人會員の遠大思想と申上たる一例を擧げますれば、近衛公爵令夫人の、

國を思ふ心の花ぞさきにける
　香り傳へよ千代に八千代に

の如き若くは、公爵令夫人島津田鶴子の君の、

もろ人のいさをとゝもにこの文の
　榮行く末をなほいのるなり

の如く、其機關新聞に依りて愛國の至誠を廣く遠く、推し及ぼさるゝとてあります。和歌山縣の會員、浦月子の君は、

細くとも千すぢの糸をよりかけて
　强き御國のもとゐ結ばん

と奮發せられ。福岡縣幹事布野てう子夫人が、

人も我も力のかぎり盡さばや
　御國の爲に心あはせて

と協力せらるゝ結果、軍人の後援たる、此愛國婦人會が、益々盛大に赴くを見て、

かくてこそ共に盟ひしかひはあれ
　いやさかえゆくあはれこのみち

と悅び詠じつゝ、益々奮勵の度を加へらるゝは、濱尾作子夫人てあります、尚ほ一つ二つ、軍人の心を强うする、愛國婦人方の述懷を擧ぐれば、福岡縣村島常子夫人の、

たみなとて何かいとはんむらぎもの
　やまと心を心ともがな

又本會主唱者奥村五百子刀自の如きは、齡耳順に達する身を以て、或は北海の怒濤を蹈み破り、或は炎熱溶金の候を冒して、遠く九州に遊說する等、席暖まるに暇あらず、久く古里へも歸らずとて、

故里の軒端の梅は咲きつらん
　うぐひすならて人はとはまじ

の熱誠は、昔の我門を過れども入らざりし、熱心者に比するも、耻かしからぬ事と思ひます。東京にても、多くの貴婦人方は、百事を拋ち、常に相會して、本會の事業を評議せらるゝ事は、松下たか子の君の左の詠にても分ります。

ますらたけをに
くにのためはた
つくすこゝろは
はげみたまへろ
こゝろのはなも
たかきいやしき
とりぐ＼にほふ
かずならぬみも
くもゐにのぼる
やまどりのをの
ながきはろひも
あらぬみも
よのために
おくれじと
ひめだちの
さくらどき
おしなべて
はなむしろ
けふこそは
こゝちして
しだりをの
あかぬ色かな

理事　公爵夫人近衛貞子筆

終りに臨み、特に吾々軍人の、永く記憶して忘るゝに忍びざるは、小林しま子の君が、吾々軍人の爲に死する迄同情を寄せられたる事てあります。其大略は左の記事にて、皆樣御承知の筈てあります。

長野縣長野市松代町小林しま子は、同市なる製糸場の女工なるが兼てより本會に熱心なる同情を寄せ、曩日より會員たりしが、病氣に罹り家計も自然不如意なりし爲め、會費遲納ありし處、先頃危篤の場合に臨み、遺言して是非愛國婦人會の會費一圓を納付せよと、吳れ／＼も家族に依賴し、尙妹にも入會を勸めたる上、死亡せしよしにて、此程親族より納付方延引の理由と、會費一圓とを添へ支部へ拂込みたるよしなるが、女工の身を以て會員となるだに既に篤志の事なるに、生前の約を嚴格に守られたる、實に殊勝なる心かけにこそ。

以上の如く、實に眞面目にして、只々赤心を以て推さるゝ婦人方の同情に對して、吾々軍人は、感奮せざらんと欲するも、得可らざる次第であります。即ち言ひ換へれば、軍人に第一必要なる軍人精神は、愛國婦人會員方の同情に依りて、如何に奮起し、養成せらるゝか知れないと思ひます。此吾々軍人の精神上の反應を見はすには、子爵小笠原秀子夫人の、

武夫の心もいとゝ勇むらん
　御國を思ふ人の誠に

の詠を拜借すれば十分であります。此御想像通り、否、寧ろ其れ以上の感動を、軍人精神の上に及ぼす事と私は固く信ずるのであります。

新年海　福岡縣會員　村島つね子

をさまれる御代のためしはあら玉の
　年たつ海の波にこそしれ

愛國婦人をことほぎて

この文の榮えを祝ふ言の葉を
　年たつけふのことほぎにせむ

ますらをにまけぬ心をたをや女も
　文の林にいりてみかゝん

愛國婦人の臨時增刊を祝して
東京府　會員　松下たか子

むらきもの心の友のにひぶみを
　年のはじめに見るぞ樂しき

愛國婦人會の益々盛ならんとをいのりて

去年よりもいよゝか繁らむ姬小松
　み雪のうちにねざしかためて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論説

如何にせば戰士を慰むるを得べき

陸軍歩兵少佐　伊豆凡夫

戰ひ終りて時立てば、世人に忘れられ、太平久しきに亘れば、世の中に無用視され、眼低き政事家には、不生產機關の緊縮といふ名義の下に、軍備の削減を唱へらるゝも、敢て世人に向つて誇らず、政事を語りて反論を試みることなく、薄給に甘んじ、質素を旨とし、唯一筋に忠節を本分とし、皇室國家の保護を以て自ら任じ、一朝事あるや、二つなき命を鴻毛の輕きに比し、屍を馬革につゝみて、妻子の行末を顧みず、笑ツて原上の露と消ゆるもの、是を軍人の本色となす。其意氣や高潔といふべきなり。然るに、從來是等軍人に對し、而かも戰時に當りて、之を慰藉せんとして、或は金品を送り、或は親しく戰地に徃きて慰問するの擧あり。一鄕一村の團躰よりするあり、華族團よりするあり、貴婦人會よりするあり、其方法種々なれとも、吾人より之を見れば、毫も己れの本分を信じ盡せる戰士を慰むるに足らざるを覺ゆ。既に一死を期して戰に臨む、硝烟彈雨何かあらん、困苦缺乏何かあらん、此時に當りて、慰問に接す「御苦勞で御座ります」といはるれば「難有存じます」と答ふる迄なり。既に生命を賭す、金品何かあらん、戰士より「御志は辱う御座りますが、別に金品の必要も御座りませんから、御返却申します」といはれ、處置に苦しみたるは、日淸戰役慰問使の實驗なり。況んや、戰時倥傯の際、宿舍車馬等の世話の爲めに、戰士に厄介を掛け、難有迷惑の四字は、戰士が慰問使に對する普通語なりしなり。抑も慰問するといふ志や美なり、美なる志何故に斯る結果を呈するや、他なし慰問其法を得ざればなり。慰問使若し戰地に向ふを止め、戰士の留守宅を訪ひ、夢冷かなる其妻を慰め、父を慕へる其子を撫てん乎、此消息は、傳はりて戰士の聞く處とならん、勇み進んて戰に臨み、皇室の爲め、笑つて死する軍人と雖も、戰場露營の夢の半には、我妻如何に我子はとの情は、猛將勇卒も亦免るゝと能はざる處なり。此際手に接する郵書に依り「留守宅は團體より見舞はれ、華族に訪はれ、貴婦人の慰藉を受く安心あれ。」との水莖の跡を見ば、感涙滂沱、寧ろ一日も速かに死して、國に報ぜんとの心、湧然として起るなり。語を寄す、向後の慰問者よ、希くは慰問の方法を誤りて、勞して効なき愚を爲す勿らんことを。

理事　公爵母堂毛利安子筆

◎軍艦のお正月

海軍大尉　長尾耕作

軍艦では一月一日にはどの檣にも鮮明な軍艦旗をかゝげます（之を艦飾と申します）。又檣の頂に松の枝を飾ることもあります。艦外に見える飾はこれだけて、その外にはお鏡飾とか、お雜煮とか、それは無論御祝として出來るだけの事はいたしますが、儀式としては、午前に艦內を片付まして、總員は正服に著更へ遙拜式を行ひ「君が代」の樂譜を奏して、寶祚の無窮ならんを祈ります。これが終ると、艦長室に於て、上長官、士官、准士官、下士官、一等卒と順次に　天皇　皇后兩陛下、皇太子殿下の御眞影を拜し、それが終ると、御互に「お芽出たう」と祝します。或は士官以上は一室に集ッて、屠蘇とかずの子で祝酒を酌むこともあります。又軍港に碇泊してゐると、その地の水交社に、海上勤務、陸上勤務の海軍武文官一同が集會し祝酒を擧げるのが通例てす。本年は、下士卒集會所の設備が出來ましたから、下士卒は各艦から集合して、こゝて祝酒を擧げるのも愉快なことゝ思ひます。

紀元節や天長節には、運動會とかボートレースとかがありますが、お正月には、人々年頭の廻禮とか、昨年ごのし疲勞とかて、悠々と遊技などを見物出來ない故か、運動會などは行ひません。元氣な人は、方々と飮みあるいて細君をこまらせる位のことてあります。しかし、外國などに碇泊してゐると、ボートレースを行ふとか、宴會を開くとかの事もあるやうてす。斯く申す記者が、まだ候補生時代に、金剛に乘ッてサンフランシスコ港に碇泊してゐましたときのお正月の元日には、ボートレースがあッて、在留の日本人が澤山見物に來ました。それは明治二十六年の事てしたが、その競漕中、候補生の競漕に勝者の祝賞法が面白かッたてす。

このひの觀客中に、當時の領事珍田氏の夫人と正金銀行の鍋倉氏の夫人がゐられました。この二人の方が桑港在留日本婦人の上流者で、外に交際社會に名のある夫人はなかッたてす。さて、候補生の競漕は一組て、その勝ッた組の十一人は、負けた者の前に立ッて、シャンパンを飮みましたが、そのお酌を、前の兩夫人がしたのてす。シャンパンは艦長からの賞品、それを敗者の前て「これ見よ」と甘さうに飮むと同時に、觀客一同の拍手てす。敗者は屢々ボートレースに出ましたが何時も負ける計り、この時始めて勝ッたのてすから、シャンパンの味も亦格別てした。しかし、シャンパンを飮んだといふことよりは、この夫人のお酌といふことは、大々的の名譽てして、ちと、ハイカラア然としますが、日本て云へば「夫人」「お酌」。考へれば何でもなく、又妙に考へると、異な感じがされます。けれども、女性を貴ぶ亞米利加、ことに宴會などては、男子が夫人に注意して種々世話をやく亞米利加て、夫人が男子にお酌をするの一事は、競漕に勝ッたといふ名譽を賞めて、夫人が酌をされたので、無上の名譽と思ッたてす。（完）

◎歐米女子教育の現況（承前）

文學士　下田次郎　述

瑞西に參ってベルンと云ふ方へ行くと、孤兒院であるとか、教育所又は高等女學校であるとか云ふものが多い。高等女學校は廣い田地を持って居りまして、生徒が自ら馬鈴薯其の他の野菜類を作つて之を料理して居る、又學校の裏には三十匹ばかりの牛を飼つて、其牛乳を飮んて生活して居ります。自ら衣食を供給しながら生活して居り、其の成績も極めて宜しきやう思ひまして、健康に於ても誠に活如として顔の色澤も宜く、遊泳をする所などもありまして、至極田園的の學校として面白く感じました。墺地利の維也納の近所ても之を見ましたが、日本ても斯ふ云ふ學校を造りましたらば、田舍に於て面白い學校が出來やしないかと思ひました。

又瑞西て感ずるのは慈善事業てあります、至る所數多の孤兒院又は慈善病院と云ふやうなものがあります。

墺地利に於ては、獨逸の女子教育と大した差はありませぬ、併ながら躰操と云ふやうなものは進んて往きませぬ。ブタペストの方に參りますと、此所の女子教育も墺地利と似寄ったものてあります。ブタペストは匈牙利の都てすが、匈牙利人は東洋の血が混つて居るから、日本人には意外の同情を持つて居りまして、學校を始め其他名所の如きも賴みもせぬに大學の學生などが、案內して見せてくれます。

伊太利では高等女學校の生徒の數と、女子師範學校の生徒の數は、殆んど同じ位と云ふやうに、女教員志願者が大層に在るので、多くは貧乏人の女が所望する、是れは生活の競爭がひどいからだと云ふことてあります。羅馬などに行くと、私立の師範學校が澤山にございます、師範學校と云ふより、寧ろ教員養成所と云ふ方が當ります、其の教員養成所に參りましたが、躰操などは一向見るに足りませぬ。其他の授業も別に變つたことはありませぬが、手工などは有繁に善い者があります。葡萄酒國てありますから、晝飯時に往つて見ると、奇麗な籠に肉と麵包を入れてそれを敎場て開いて食べて居る。

伊太利に於ても佛蘭西と同樣に、富貴の者は尼寺的の教育を受けるので、外界との交通を禁じ學校內に閉籠めて、嚴格なる教育を授けます。一躰に舊教國ては、古風な思想が流行るので、女子なども昔の尼寺的の教育を、今日でも受けさすことにして居ります。露西亞に參りましても、矢張りさう云ふ學校を澤山見ました。

（未完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家計費目の割合（二）

統計局審査官　吳文聰

家計豫算に就き尚少しく述ぶる所あるべし。エンゲル氏の第一の法と云ふは、家族が貧なれば貧なる程、收入中食料に費す所愈々大なりと云ふに在りて、第二の法は、收入中、食料に費す比例の多少は、生活程度の標準として、用ゐるべきものなりと云ふに在り。之を精しく云へば、食料に費す比例(割合)の多きは、他の目的の爲めに費す、餘裕の少きを示すものなりと云ふことなり。今千八百五十三年、白耳義人の家計豫算より得たる數を示せば次の如し。

所得	食料	家賃	衣服	點燈、燃料	其他
六百弗以下	七一・五	八・五	一〇・九	六・六	二・五
六百弗—九百弗	六九・〇	七・九	一三・八	五・九	三・四
九百弗—千二百弗	六七・二	七・四	一五・二	五・七	四・五
千二百弗—二千弗	六三・三	六・九	一六・八	五・三	七・七
二千弗以上	六四・八	七・四	一七・一	四・〇	六・七
平均	六九・九	七・六	一四・九	五・六	五・〇

此表にて注意すべきは、食料は、收入の增すに從て、其割合却て減少すれども、衣服は、收入の增加するに從ひ、愈々益々增加すると在り。凡そ人は、少し生活に餘裕あれば、忽ち衣服に奢るものなり。故に、儉約の心掛あらば、先づ衣服を節することに心を用ゐること第一なり。借家料と、點燈料とは、其割合收入の多少に甚しき關係なし。

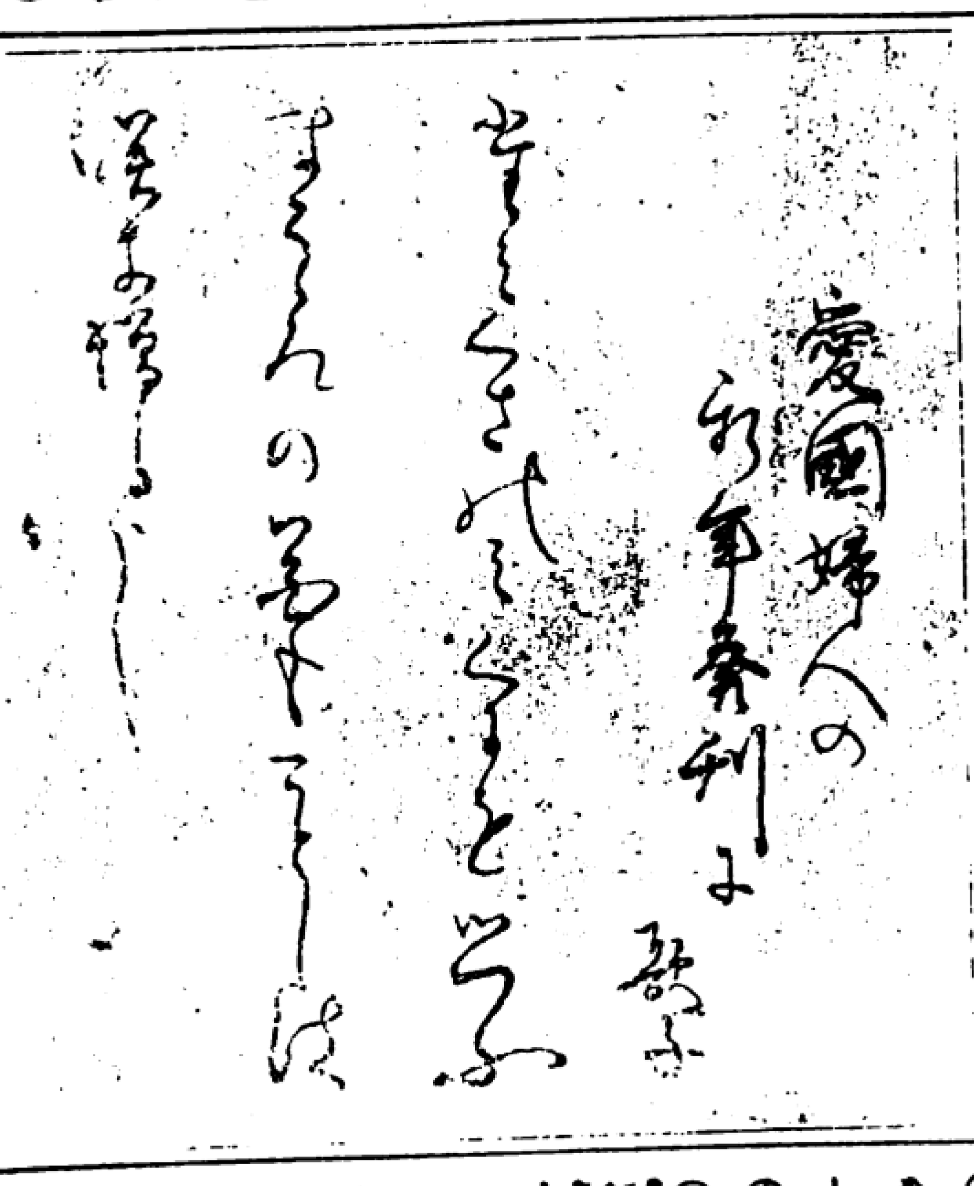
其他と云へる割合の、次第に多きは暮しの餘裕を示すものなり。

尚費目の一層精しきものを示せば、參考となることも亦一層多ければ、左に詳細の表を示す可し。此表は、最少收入六百佛（日本の百五十圓）のもの、一を費すとせば、其以上のもの、幾何を費すかと云ふ割合を示せしものなり。

	六百佛以下	六百佛—九百佛	九百佛—千二百佛	千二百佛—二千佛	二千佛以上
(一)食料　肉類	一・〇〇	一・六七	三・〇一	四・九一	六・七七
野菜類	一・〇〇	一・三七	一・五七	一・九八	三・〇八
酒類	一・〇〇	三・一〇	五・八九	二二・〇六	二七・八〇
果實類	一・〇〇	二・九七	三・六〇	六・八〇	二・三〇
〃	一・〇〇	一・四七	一・八九	二・五八	四・〇一
(一)衣服	一・〇〇	二・〇六	二・八一	四・三七	七・〇五
(三)住家	一・〇〇	一・四二	一・七三	二・三〇	三・八八
(四)點燈、燃料	一・〇〇	一・三五	一・七四	二・二八	二・七三
(五)衞生	一・〇〇	一・五三	三・二四	五・三六	九・八三
以上生活上必要計	一・〇〇	一・五二	一・九七	二・七六	四・二九
(六)智能開展ノ爲メ	一・〇〇	二・五六	六・七八	二〇・七七	一七・七八
(七)德義開展ノ爲メ	一・〇〇	二・〇〇	五・〇〇	七・〇〇	一〇・〇〇
(八)租	一・〇〇	二・七五	八・五〇	一九・一〇	二五・〇〇
(九)娯樂	一・〇〇	一・九七	一・七五	三・八三	五・三六
(十)其他	一・〇〇	四・五〇	八・〇〇	一七・〇〇	二一・五〇
總費用	一・〇〇	一・二四	一・六一	二・三三	三・五五
總收入	一・〇〇	一・五五	二・二一	三・〇一	四・六八
不足	一・〇〇	一・四六	一・一四	一・四二	一・五七

此表にて第一注意すべきは、食料のメは最下級者の四倍なることなり。殊に肉類は、六倍七分七厘、野菜は三倍なるが如きに在り、是れ下級の者は、野菜を食料とすること多きと、多く肉類を用ゐ難きことを示すものなり。酒に費す金の如きは、二十七倍となる。是れ良き酒を多く用ゐるが爲めなり。尚衣服借家料も亦次第に上進するを見るべし。眞の衣食住のみにても、上級者は下級者の殆んど四倍三分を要するを見るべし。其他教育德義の爲め、又公租等の爲め、費す所甚だ多し、是れ皆生活の餘裕を示すものなり。不足と云ふも、若し六百佛の家に壹圓の不足があれば、二千佛以上の人にも、壹圓五十七錢の不足ありとの比例なり。

（未完）



評議員　下田歌子筆

◎童話

海軍大尉　長尾耕作

お正月のお慰みに、數種の童話を申し上げますが、勿論古い種もありますから、つまらないと思召す人は、御覽下さらぬこと。

○良教師　先生は愚鈍な生徒に向ひまして、「私がお前さん位の年には、もっと怜悧て、算術などは、どんな難かしいことでも、きっと答へましたぞ」、小兒は先生に向ひまして、「ハイ、それでも、あなたの小兒の年には、あなたとは、ちがった先生が、あなたを教へたことをお忘れてはありませんか」。

○利發な坊っちゃん　先生は坊ちゃんを捕へまして、「坊っちゃん、〳〵、この鏡をごらんなさい。それ、そこに猿が居ませう」、坊ちゃん「ウム、ゐるよ、お前はどうして、それが見えたかい。」

○法螺先生　大法螺吹きの先生が、一少年に向って、有りもせぬ法螺を吹き立て、「どうです、あなたは、前にさう云ふことを聞きましたか。」少年「イーエ、聞かないよ。しかし、君は聞いたことがあるのかい」

○切手無しの郵便　「拜呈昨日拜受の御手紙は消印濟の切手を貼附致し有之……」との手紙を受取ったので、その返書に「拜復昨日の貴簡には切手一枚も貼附無之……」と書いて送った紳士がありました。どちらが横着でせうか。

○命の有無　强盜が下男にピストルを指し向けまして、「シッ、聲を立てると命が無いぞ。」とハふと、下男は大きな聲で「命が有ればこそ聲が出るのです。」

○大工の智慧　主人は雇入れの大工に、「オイ、氣を附けないと、それ、釘が無くなってしまうよ。」大工は眞面目に、「ハイ、みんな勘定の中に附け込みますよ。」

○小兒の正直　「皆さん切符を改めます」と、二等列車に入り來った鐵道の驛夫は、幼き女の兒に向ひまして、「お孃さん、あなた、お年いくつ。」幼女は母の顔を見上げつゝ「ネー、母さん、アタイ、今年は六つになったのだけれど、汽車に乘ると五つといふのネー。」

○無用の手紙　私何もすることとこれ無く候に付き、この手紙相認め申候、しかし、何も書くことこれ無く候ゆゑ筆とめ申候、かしく。

○ヴァイオリンの妙手　新年のお盃を酌みかはす爲め、諸家のお孃さんを招待して、饗てお膳が据はると、主人は「浪子さん、あなた、ヴァイオリンと御一緒だと、愉快な音が拜聽出來ますのに。」浪子はすかさず「ハイ、有り難う存じます。しかし、ヴァイオリンはお盃頂戴出來ませんの。」

○天眞爛熳　母の乳房を摘みながら太郎は「母さんてば、私のねむくない時に、私をねかして、私がほとんにねむい時には、私を起こすのだネー。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

特別廣告

來る一月十四日麴町區九段阪上偕行社に於て年首互禮會を兼ね評議員總會及東京支部幹事會を開き候に付御來場被下度候也

愛國婦人會本部

◎愛國婦人會記事

◎評議員會　本年一月中の日割は左の如し

一月廿一日（第三水曜日）　第三の組
一月廿八日（第四水曜日）　第四の組

◎新年の評議員總會　別項廣告の如く來る一月十四日午後一時より九段阪上偕行社に於いて評議員總會及び東京府幹事總會を開き、會長理事幹事長評議員幹事諸氏一堂に集り、兼て年始互禮會を開く都合なり。

◎有功章贈與　本會に對し特に功勞ありたる人及金品寄贈者に對し左の如く有功章を贈與せり

七寶金色製二等有功章　大阪　廣岡淺子
同　奈良　楯石梅子
同　新潟　岡崎榮子
同　同　柏田須磨子
同　廣島　江木仲子
同　岩手　北條菊子
同　東京　男爵夫人千家俊子
同　東京　橋口喜代子
以上特別の功勞に依り贈與
七寶銀色製三等有功章　新潟　川上佐太郎
同　東京　中山幸子
以上金品寄附に依りて贈與
七寶銀色製三等有功章　京都　中澤楠猪子
同　同　半井佐賀子
同　同　廣瀬宮子
同　同　綾野壽子
同　同　八田艶子
同　同　貞廣太郎
同　鳥取　水谷千鳥
同　同　内海芳子
同　同　友成雪子
同　同　井上いわ子
同　同　天野しらべ子
同　同　佐伯壽惠子
同　熊本　名和ちゃ子
同　同　永田なほ子
同　同　伊藤たも子
同　同　井上たき子
同　同　田川きよ子
同　同　戸張よし子
同　大阪　土居美名子
同　同　菊地順子
同　奈良　李田久仁子
同　同　飯田伊太夫
同　新潟　田中ぬい子
同　同　小野伊曾子
同　同　山下良實
同　同　秋山利正
同　同　山代道策
同　同　片桐妙源
同　廣島　溫田ふゆ子
同　福島　有田滿壽子
同　同　馬場きち子
同　同　松本正堀
同　兵庫　大前初子
同　同　谷野供子
同　同　大塚慶子
同　同　肥田野喜惠子
同　東京　仁杉歌子
以上特別の功勞により贈與

◎本會昨年中行事略記　本會は一昨卅四年三月設立以來、各職員の熱心なる盡力により、昨三拾五年に於ては、會務著しく發達せり、今昨年中に於ける本會行動の概况を記さんに、●一月●十五日をトし、九段阪上偕行社に於て、新年互禮會、并に評議員會を開きしに、來會者四拾六名ありたり、又同月中奧村刀自は鎌倉地方に遊說せり。●二月●奧村刀自横須賀に於て演說し、理事島津公爵夫人及び評議員伊東子爵夫人も本部より出張盡力せられたり。次に靑森凍死軍人に對し救恤金三百拾五圓支出の決議を爲し、直ちに實行したり。●三月●本會の機關新聞として本紙を發行する事を決議し、同月廿七日其初號を發行し、爾後引續き今日に及べり。又同月三十一日偕行社に於て本會第一大會を開けり、市内は勿論近郡及他府縣よりも、來會者非常に多く、無慮一千名に及び、各評議員は夫れ〴〵部署を定めて、斡旋せられたり。●四月●京都支部發會式を同十六日知恩院に於て開きたり、來會者は七百餘名にして極めて盛會なりき、本部よりは奧村刀自及び本紙主幹山澤俊夫出張し、奧村刀自は引續き滋賀岐阜三重愛知地方を遊說せり。●五月●三日各府縣知事招待會を偕行社內に於て開けり、當日淸浦司法大臣內海內務大臣及び各府縣知事三十二名出席あり、理事鍋島侯爵夫人會長に代りて挨拶あり、評議員鳩山夫人本會を代表して謝辭及び將來の助力を請ふべき旨を演說し、宴席に於て、淸浦男及び河島知事等演說せり。●六月●奧村刀自愛知縣地方に遊說せり。同十九日東京府幹事會を偕行社に開き、同廿一日評議員總會を同社に開き、豫算を議決せり。●七月●奧村刀自北海道地方に遊說せり。●八月●福岡兵營の慘事につき、金六拾六圓の弔慰金を贈りたり。●九月●香川縣木田郡に於て木田郡支部第一總會を開き、同時に本會員一同團結して、木田婦人會を組織したり。●十月●奧村刀自長野新潟地方遊說の途に上りたり。●十一月●熊本支部に於て幹事會を開き、爾後毎月開會の事に決せり。●十二月●評議員總會を同九日偕行社に開きて豫算を議決し、翌十日同所に於て東京府幹事會を開きたり。又同十六七兩日に於て、香川縣支部發會式擧行につき、本部より奧村刀自出張せり。尙は刀自は引續き同地方を遊說す。

評議員中山幸子筆

正誤　前々號紙上大坂府支部幹事氏名中熊勢輝定母堂熊勢千枝子の熊は能の誤につき訂正す

◎大阪府支部幹事氏名（承前）

井上猪兵衞夫人　井上ゑい子
大谷儀寶夫人　大谷通子
田中市太郎夫人　田中しゅん子
沖野忠雄夫人　沖野絲子
浮田桂造夫人　浮田よね子
小森德吉郎夫人　小森ひさ子
永田仁助夫人　永田ちう子
肥田彌兵衞夫人　肥田きく子
井上淺次郎夫人　井上かう子
井上正陽夫人　井上粂子
渡邊義郎夫人　渡邊滿賀子
範多龍太郎夫人　範多たか子
今西林三郎夫人　今西みれ子
澁川忠一夫人　澁川ちゑ子
金澤種次郎長女　金澤國子
莊保なほ子
前川彦十郎夫人　前川歌子
別府むつ子
山川七左衞門夫人　山川とよ子
佐々木政又夫人　佐々木楠子
今井國三夫人　今井ひさ子
卜半了啓夫人　卜半すゑ子
杉村正太郎夫人　杉村ひさ子
島崎槌彦夫人　島崎　子
磯野良吉夫人　磯野つゑ子

松村九兵衞夫人　松村せい子
奧村善右衞門夫人　奧村ぬい子
前川槇造夫人　前川まさ子
藤田平太郎夫人　藤田富子
長谷川爲治夫人　長谷川紋子
甲賀宗致夫人　甲賀ゑい子
片岡直輝夫人　片岡ときゑ子
藤本一二夫人　藤本ゑい子
菊地篤忠夫人　菊地みな子
梶原平太郎夫人　梶原品子
大塚卯三郎夫人　大塚香苗子
淺井友太郎夫人　淺井やす子
關新吾夫人　關八濱子
濱崎永三郎夫人　濱崎ため子
山田新一郎夫人　山田夫代子
草野錦子
松本松藏夫人　松本光子
福田謙之助母堂　福田むめ子
豐田善右衞門夫人　豐田かれ子
町田忠治夫人　町田寧子
本山彦一夫人　本山きく子
平井保德夫人　平井えん子
白男川實福夫人　白男川よし子
右近權左衞門夫人　右近はや子

◎愛國婦人會員現在數表（明治三十五年十二月卅一日調）

支部名	特別會員	通常會員	賛助員	計
北海道	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東京	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大阪	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京都	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
神奈川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
兵庫	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新潟	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
埼玉	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
群馬	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
千葉	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
茨城	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
栃木	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
奈良	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三重	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
愛知	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
靜岡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山梨	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
滋賀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岐阜	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
長野	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岩手	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
靑森	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山形	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
秋田	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福井	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
石川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
富山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鳥取	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
島根	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
岡山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
廣島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
山口	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
和歌山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
徳島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
香川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
愛媛	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高知	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
福岡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大分	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
佐賀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
熊本	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮崎	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鹿兒島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
沖繩	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
臺灣	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
海外	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

●昨年の女子教育界

昨年中の女子教育界は非常の隆盛を來たし、數多の女學校新設せられ生徒も各校に充滿し、世人をして女子教育の前途轉た多望なるを祝せしめしに何事ぞ昨年半ばより所謂女子墮落の聲社會の一方より響き渡り、其反動益々甚しく遂に女子教育者中、地方女學生をして東京に遊學せしむべからずと迄論ずるものあるに至りしは誠に悲むべき限りなり。然れども之れ勃興せんとする際に於ける小反動にして大勢は決して防ぐ可からず。年の新なると共に、一層の隆盛を來すや知るべきのみ。左に昨年中各學校の情況一斑を物せん。

▲女子高等師範學校　同校にては三月三十日に第拾三回卒業式を執行し、文科廿三名、理科十七名、選科一名、地理歴史專修科卅三名の卒業者を出したり。運動會は春秋二季に之を開き大宮、大森、立川方面に遠足を執行せり。本年末日迄の現在生徒は文科一一七人、理科七六人、技藝專修科八五人、研究科一人、國語漢文專修科三七人、地理歴史專修科三〇人、家事科一七人、選科六人合計三六九人なり。現在職員數は校長一人(男)、教授二人(男)、四人(女)、教諭五人(男)、二人(女)、舍監二人(女)、助教授五人(男)、二人(女)、助教諭六人(女)、訓導二人(男)、八人(女)、保姆四人(女)、書記六人(男)、囑托十四人(男)、十四人(女)合計百二人にして、生徒募集の景況は文科一八八人の應募者中三一人、理科一五八人の應募者中二二人、技藝科五六人の應募者中二二人、地理歴史專修科六九人の應募者中三一人、家事科七四人の應募者中二六人の入學ありたり。本年四月入學せしむべき本科生徒は各科通して七五人採用の筈の處各府縣知事の推擧にかゝるもの多く昨年末募集期日迄に其數五六〇人に達したり。尙同校昨年度の豫算は八万四千三百二十九圓なりしが本年度の豫算額(議會へ提出せられたるもの)は拾万百九拾四圓にして國庫の補助支出は八万四千餘圓なりと云ふ。

▲東京音樂學校　同校昨年度の支出豫算は參万八千百六拾八圓餘にして、昨年中同校々長渡邊龍聖氏は辭任し、大島義修氏其後を襲ひたり。同校の卒業生は三月に甲種師範科六人、選科一人を出し、七月に本科二名を出したり。生徒募集の景況は昨年始めて甲種師範部の官費生を募りしに、二十名の入學者に對し百三十三名の應募者を見るに至りしと云ふ。尙ほ同校には春秋二期に演奏會を開き、十月には紀念式を擧行し、同月江の島に運動會を開きたり。

▲日本女子大學校　同校に於ける昨年中の重要なる記事を掲げんに、四月廿日紀念式を擧行し、付屬高等女學校第一回卒業式を擧行せり、六月に於て校舍一部の新築落成せり。(建坪一一六坪)尙引續き寮舍(樺山伯の寄附したる樺山寮、東二寮及び森村豐明會の寄附したる豐明寮共)新築落成せり。十月運動會を開く。十二月末調現在寮生三百七十五名にて豐明寮落成につき四百名以上を入舍し得(從來父兄保證人の許より通學せざるもの總てを入寮せしめたり)現在生徒は付屬高等女學校を併せて七百八拾九名なりと云ふ。

▲女子美術學校　同校に於ける昨年中の重要なる記事は六月廿五日三十四年度第三學期の授業を終了し、四月一日第一回卒業證書授與式を擧行し、當日は文部大臣も臨場演說せり。四月八日三十五年度第一學期の授業を開始せり。五月廿六日向島に運動會を催せり。六月增築校舍落成せしを以て廿七廿八の兩日生徒製作品展覽會を開きしに來觀者四千餘人、製作品の賣高約千餘圓に達せり。七月中辻帝國教育會長、矢加輪氏、大隈伯の三氏來校演說ありたり。十月向島に秋季運動會を催し、十一月一日第三回增築落成式を擧行せり。十一月三日選科生第二回卒業式を擧行せり。當日は松方伯清浦司法大臣千家知事等來場演說せられたり。年末の現在生徒三百十八名なりと云ふ。

▲日本女學校　同校に於ける昨年中の重要なる記事は三月廿一日に專修科第一回卒業式を擧行せり。女子寄宿舍を本鄕駒込なる西校長宅に新築し、地方よりの遊學生を收容せり。運動會は春期に於て鎌倉に開き、秋期には大宮公園に開けり。十月十八日に紀念式を擧行し、船越男等來臨せり。本科の外に女子文學講習會なるものを開き、本年三月に第一回卒業生を出だす筈なり。現在生徒六百七十名あり、分校新築計畫中なりと云ふ。

▲跡見女學校　同校は昨年四月廿一日小石川植物園に於て盛んなる運動會を開けり。現在生徒は二百七十名にして、寄宿生百名、通學生百七十名なりと云ふ。

▲三輪田女學校　同校は昨年四月十日より開校し十月に新築校舍落成し同月四日新築井に開校式を擧行し、當日は貴婦人紳士の來會いと多く、大隈伯千家男等の演說ありたり。

▲女子東京美術學校　同校は昨年四月一日より開校し、十一月に於て新築校舍落成と同時に內部の組織を變更し、校長には藏原惟郭氏之に當れり。同月廿二日新築落成式を擧行したるが現存生徒二百名あり目下生徒募集中なり。

▲成女學校　昨年三月第二回卒業生十一名を出だし同五月校舍狹隘の爲め敎室一棟を築造せり。四月校長吉村寅太郎氏は第四高等學校長に任ぜられて赴任せしも、尙校長の任を負ひ監督の責に任ずといふ。教員は專務十五人囑托七名現在生徒百七十六人なりと云ふ。

以上記載の學校の位置及性質并に他の女子教育を主とする重なる學校を左に示さん

●東京市各女學校

性質	校名	位置	校長
文部省直轄	女子高等師範學校	本鄕區湯島五丁目	高嶺秀夫
同	同附屬高等女學校	同	主事 篠田利英
同	東京音樂學校	下谷區上野公園內	大島義修
同	同　分校	神田區錦町	同
宮內省所轄	華族女學校	麴町區永田町二丁目	細川潤次郎
府立	女子師範學校	小石川區竹早町	林吾一
同	第一高等女學校	淺草區七軒町	伊藤貞勝
同	第二高等女學校	小石川區竹早町	林吾一
同	第三高等女學校	麻布區日ヶ窪町	小林盈
私立	日本女子大學校	小石川區目白臺高田豐川町	成瀨仁藏
同	同附屬高等女學校	同	同
同	東京女學館	麴町區虎ノ門內	土方久元
同	跡見女學校	小石川區柳町二七	跡見花蹊
同	三輪田女學校	麴町區四番町一四	三輪田眞佐子
同	明治女學校	北豐島郡巢鴨村字庚申塚	巖本善治
同	女子學院	麴町區上二番町	矢島楫子
同	日本女學校	本鄕區龍岡町三十六	西澤之助
同	成女學校	麴町區下二番町七一	吉村寅太郎
同	女子英學塾	麴町區元園町一丁目	津田梅子
同	共立女子職業學校	神田區一ツ橋外	中川謙二郎
同	東京裁縫女學校	本鄕區東竹町三五	渡邊辰五郎
同	實踐女學校	麴町區元園町二丁目	下田歌子
同	女子工藝學校	同	同
同	女子美術學校	本鄕區弓町二丁目	藤田文藏
同	東京女子美術學校	神田區仲猿樂町	藏原惟郭

●昨年の慈善界

昨年中に行はれたる慈善事業は婦人社會に於て營まれたるもの多く、其發企は男子にあるものも其成功を期するには常に婦人の力に依頼せり。特に近年慈善事業を起すの手段として音樂會を開く事一種の流行となるに至れり。是れ果して適當なる方法なりや否やは姑く措き、此種の傾向は地方に迄及ぼし、屢々各地に慈善音樂會開設の擧あるに至れり。今左に慈善事業の重なるものを記さん。

▲露中行軍凍死事件は年の始めに起り全國の慈善家は擧つて義捐を爲し、本會及京都支部會員よりも多額の金圓を寄付し遺族の割當て非常なる巨額に上れり。之れに次て福岡兵營の火災にも、本會より金圓を寄贈したり。▲岡山孤兒院音樂會　同院は、東京に分館を設立せんがため、近衞公爵夫人方の發企にて、五月十七日慈善音樂會を催したるが、數百名の來會者ありて十分に其目的を遂したり。尙同院主石井十次郎氏は多年慈善事業に盡瘁せられたる結果十月三日賞勳局より藍綬章を下賜せられたり▲女囚携帶乳兒保育會　同會は本會評議員板垣伯爵夫人の發企にかゝり、本年五月頃創立せられたる會にして伯爵夫人は屢々市ケ谷監獄の女囚を見舞はれ、自ら其乳兒を引取り、之を鎌倉在の、慈善醫師佐竹氏に托し相州腰越の小兒保育院に於て保育せしめらるゝとの事なれば本年に於ては其結果の一層見るべきものあらん▲動物虐待防止會　同會も亦昨年に於て始めて成立せしものにて其發企者は男子なるも、婦人の力を借らざるべからずとて、運動中なれば、本年は一層の擴張を爲すならん▲苦學女子實學園　女子の苦學せるものに寄宿舍を與へ、又一定の事業を與へんとの目的を以て、明治女學校長巖本善治氏の主唱により、各貴婦人の同情を得て、六月廿八九の兩日慈善音樂會を開きしに、數千の來會者ありて、裕かに新築費を得、建築に着手せしにより、本年に入りては入園者いよいよ多かるべし。▲慈善旅行　一昨年時事新報社に於て始めて之を催し極めて良好なる結果を得しかば、本年も七月中女子部慈善旅行を相州鵠沼に催し、江湖の慈善家よりも多くの同情ありて、好結果を得たり。本年は來る三日同社の企にて神田錦輝館に於て慈善新年會を開く筈なるが是亦好成績を得べしと信ず。福田會に於ても八月中鎌倉へ旅行を催せり、尙慈善旅行の企ては其後地方にも及ぼし、新聞社及慈善團體に於て之を催すもの多き事なるが本年は此種の催し一層盛ならん事を祈る▲海軍水兵倶樂部の設立　半ば官の補助により、半ば慈善家の寄付により維持せしめんとする同倶樂部は、昨年十月橫須賀に於て設立せられたり。英國には同國海軍水兵の母として尊敬せらるゝウエストン孃の如き慈善家の力により盛大なるものありと云ふ。日本に於ても此の企ての愈々發達せんことを希ふ。▲アイヌ教育慈善音樂會　北海道土人教育の爲め、松前子爵夫人の專ら周旋盡力せられたる同會は、十月十八九日開會、之れ亦多數の來會者ありて其目的を遂し、本年寄宿舍新築に着手する筈なりと云ふ▲婦人出獄人保護所　之は本會會員原幹子氏の發企にかゝり、本會の評議員方も大いに同情を寄せられ、十一月廿一廿二の兩日大隈伯の庭園にて園遊會を開き、總收入金三千六百三十五圓の內經費金五百四十四圓九十一錢にて實收入金三千九十圓九錢を得たり且つ同所建築の場所は已に官より借受けたる由なれば、本年新築に着手し、不幸なる女子を容するに至るべし▲精神病者慈善救治會　同會は昨年八九月の頃精神病學の大家、醫學博士吳秀三氏の主として發企せられたる者にて醫師の婦人方多く之に同情を寄せられ、十月廿九日を以て慈善音樂會を開きたるが是亦好成績を得たるを以て、本年より病院等を設け、救治の方法を盡さるゝならん▲熊本の癩病院　同院は十數年前より英國婦人リッデル氏の慈善設備にかゝり、今後益々擴張の必要を認め、昨年末同氏は上京して運動中なりしにより、本年に至り一層の擴張を見るに至るべし。

●東京府下各種婦人團躰

婦人の品性を陶冶し智能を啓發して其地位を高め進んで社會の制裁を强め、更に教育、慈善、衞生、矯風の各方面に向つて活動せんが爲に組織せられたる各種の婦人團躰は、近年著しく其數を增加したるが、今其宗教的團躰以外のものにして、著るきものを擧ぐれば左の如し。吾人は其の行動の益着實にして從來博し得たる名聲の愈高まらんことを希望するもの也。

設立	性質	會名	位置	總裁及會長
十五年	慈善	東京慈惠醫院	芝區愛宕町二丁目	幹事長 有栖宮妃殿下
十九年	教育	大日本婦人教育會	赤坂區表町二丁目	總裁 閑院宮妃殿下
廿一年	衞生	大日本婦人衞生會	牛込區矢來町	總裁 小松若宮妃殿下
廿四年	慈善	婦人共立育兒會	麴町區飯田町四丁目	總裁 有栖川若宮妃殿下
十九年	矯風	日本婦人矯風會	麴町區中六番町	會長 矢島楫子
廿六年	慈善	慈愛館	豐多摩郡大久保町	館長 潮田千勢子
廿八年	交際	貧同會	小石川音羽七丁目	會員共同
卅三年	慈善教育	女子手藝慈善會	麴町區平河町二丁目	會長 ミス、パーカー氏
卅二年	教育	帝國婦人協會	麴町區元園町	會長 下田歌子
卅三年	矯風慈善	女子同情會	京橋區築地三丁目	伯爵夫人 板垣絹子
卅三年	交際	月曜會	京橋區西紺屋町	會員共同
卅五年	慈善	婦人出獄人保護	神田區神保町	會長 原幹子
卅五年	同	女囚携帶乳兒保育會	京橋區築地三丁目	伯爵夫人 板垣絹子
卅五年	同	精神病者慈善救治會	巢鴨精神病院內	未定
卅四年	同	愛國婦人會	麴町區飯田町一丁目	會長 公爵夫人岩倉久子
廿八年	教育	大日本女學會	麴町區下二番町	總裁 小松大宮妃殿下

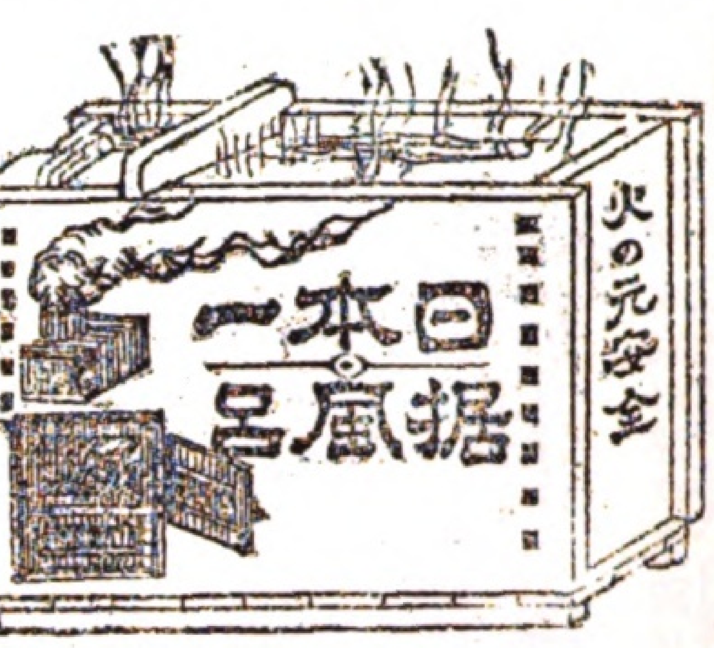
高砂相生松　兵庫　美田かず子

名も高き相生の松の深みどり
いよいよさかえん色ぞ見えける

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十六年一月一日　在九州　奥村五百子

陸海軍醫科大學御用



此の竈は是迄世間にありふれたる撈鐵鑄物製造の粗製品と違ひ總鋼を以て堅固無比の製造にして永久の保存に堪へ焚物は薪石炭其使用を得て焚物を減じ僅に廿分間に飯が出來銅壺の湯は同時に沸き又釜を下せば如何なる鍋にても掛くることを得る尚出來合ひの竈とは違ひ煙は一切煙る事なく至極輕便にして日用經濟の大王なり◎圖面細表は郵券二錢送れ進呈す

總檜木製並二入鋼製改良新石炭燃早沸釜付上り湯付種々其外何入入にても出來合有之又桶風呂も有り改良早沸釜丈にても定價に販賣仕候間續々御求願上候

◉此の外湯屋旅店料理店用釜各種出來有之候

定價　圖面の釜を除く外一切附屬付三升焚廿一圓四升焚廿六圓五升焚三十二圓六升焚四十五圓此外にも種々あり

製造發賣元　日本橋大門通油町十九番地電話浪花一四六一　銅器物問屋　南部鐵瓶販賣　石川商店

賀正

婦人洋服地幷附屬品及袴地

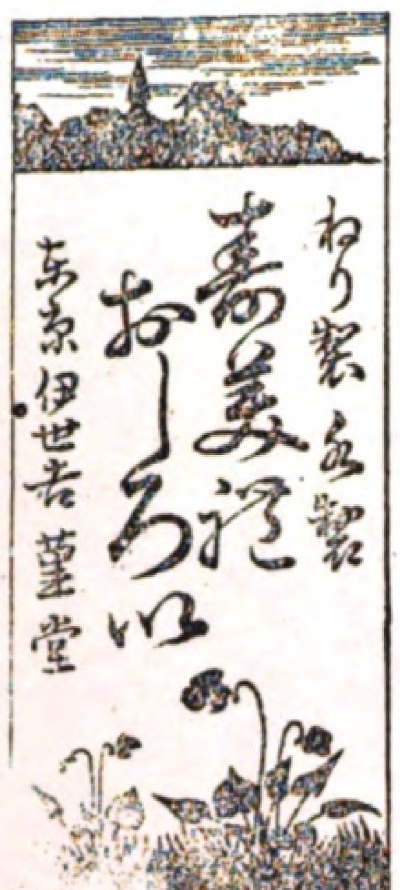
服地、リボン、羽根エリ卷、手袋、肩掛、帽子、造花、羽根、ピン、櫛、女學校用袴地各種着荷仕候

吾妻コート地珍柄種々澤山新着仕候 尚廉價ニ新調仕候間多少共御注文被下度願上候

東京市麴町區麴町二丁目七番地

婦人洋服地　附屬小間物　卸小賣商　八木屋號　大國服裝店　電話番町七四二番

製造本舖



ねりおしろい　定價　大瓶二十錢　小瓶十二錢

水おしろい　定價　大瓶廿五錢　中瓶十五錢　小瓶十錢

東京市東兩國横網町一丁目

定價　絲藍紅彩蝶番ひ鐘詰　六錢五風　水ツクス入三錢　袋入壹錢

伊勢吉壽美禮堂謹製

恭賀新年

本舖　東京日本橋區横山町十三番　佐野大和堂

恭賀新禧

愛國婦人會事務員

小柳豐

江連重次

龜岡豐藏

家庭夜話

言文一致普通文及び家庭の新風味　著者　堺枯川編輯

萬朝報——第一冊は先頃不慮の死を遂げた佛國の文豪ゾラの多產を抄譯して子孫繁昌の話と題した全篇何にも趣味がある脚色如何にも教訓がある編者が言文一致の簡勁明晰流暢なのは言ふまでもない（幸德秋水）

毎日新聞——家庭の新風味は日本の婦人の爲に平和の福音なりしと同時に多くの男子に向ては心を刺すの白刄なりき……家庭夜話の流麗にして雅趣に富める筆路必ずや世の歡迎を受くるならん

全三冊金壹圓　一冊金參拾五錢郵税四錢宛（各冊讀切）

第二冊　質素儉約の話　一月十五日發賣

第三冊　仁慈博愛の話　二月十五日發賣

家庭の新風味　全六冊完結定價壹圓各冊廿錢郵税貳錢宛

和氣靄々たる家庭を作らんとせば先此書を讀め

東京神田區南甲賀町八番地　版元　内外出版協會

愛國婦人廣告取次

神田區千代田町　博報堂　電話本局一四四四番

京橋區尾張町　弘報堂　電話新橋八五一番

京橋區八丁堀中町　一星社

日本橋區上槇町　万年社　電話本局一一一五

家事衞生

正四位勳三等醫學博士三宅秀先生著　大日本女學會發行

總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁定價金六十錢郵税金六錢

此書は文部省學校衞生顧問内務省中央衞生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑托により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五篇ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき樣懇切に說示されたる世に類なき家庭主宰者の寶典なり

大賣捌所　東京神田區一橋通町七　有斐閣

女生徒募集廣告

本校新校舍落成し大に各科授業上の改善を計り候間入學希望の者は此際至急申込まるべし（規則書入用の向は郵券貳錢を送附せらるべし）

○裁縫科○編物科○刺繡科○繪畫科○造花科○音樂科○寫眞科○諸禮科（各科を通して適當なる學科を幷せ教授す）

東京市神田區仲猿樂町十五番地　女子東京美術學校

新刊廣告

文學博士坪内雄藏先生校閲　青年諸名家執筆

少年世界文學

◉全部五十編一冊紙數約百頁毎編讀切◉

◉正價一冊金拾貳錢郵税每册金四錢◉

少年世界文學は現時少年方の讀み物として無類の珍品、世界各國の最も面白い有益な古譚を選んで、滑稽もあり、寓意もあり、無邪氣で優美で一編讀んだら二編三編讀まずには居られませぬ。

少年世界文學は每號文學博士坪内雄藏先生の監督に成つたもので文學と教育との上から注意の行届いた事繪畫の美しい事世間に其類がありませぬ。

少年世界文學は家庭の讀本、學校の賞品、贈答の音物として最も高尚優美な且つ有益なものであります

一編　ふしぎの魚

二編　狼太郎

三編　神代の話

四編　はちかつぎ姬

五編　イソップの話

六編　六勇士

七編　蛤の草紙

以上發賣以下續次發行

發兌　東京神田裏神保町　合資會社　富山房　賣捌　全國各地書林

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂　神田區表神保町三番地

◎東海堂　京橋區銀座四丁目

東京日本橋區長谷川町
卸部　美濃磯本店

(み)
誂袴專門

小賣部　東京本郷區本郷五丁目十三番地　美濃磯支店

男女用　袴の親玉

電話浪花二千八百五十九番
電信略号　ミイソ

電話本局千四百十五番

恭賀新年
本年も不相變御用向の程奉願上候

婦人用美術裝飾品商
東京南傳馬町三丁目　大西白牡丹
電話本局三千番

新年の御祝詞申上候
明治三十六年一月一日
愛國婦人會事務員
正七位　朝倉益穗

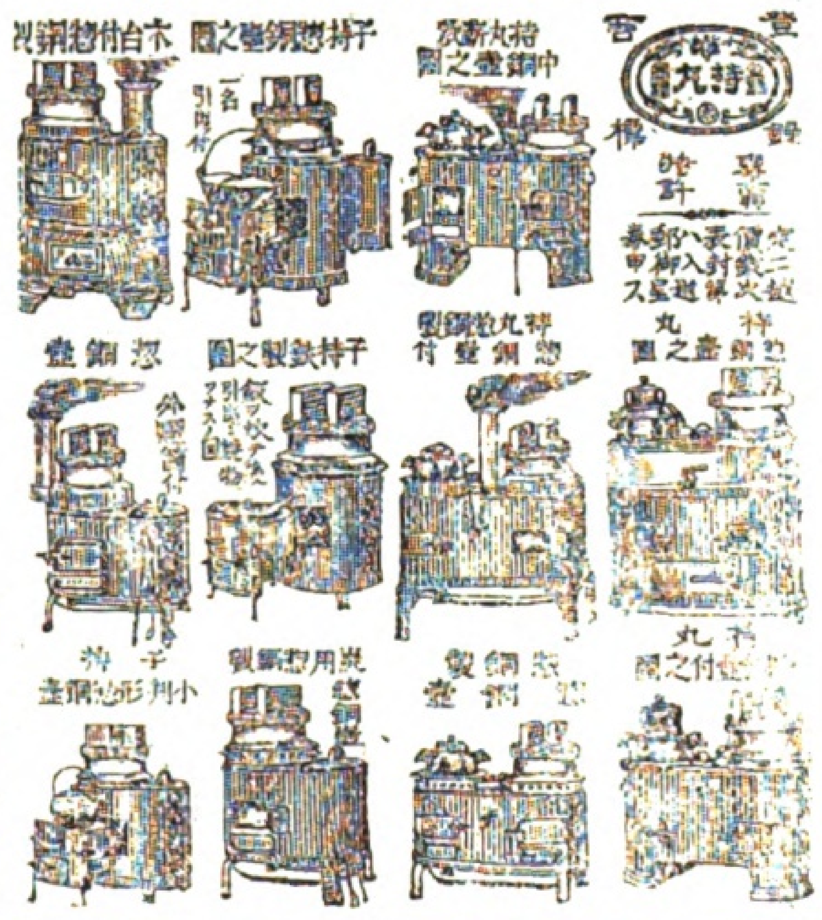
舊臘より出張に付年始の禮を缺く
愛國婦人會事務員　中村管次郎

專賣特許新發明
空氣暖爐

◎本器發賣以來非常なる好評にて社會に賞用せられ現に成田鐵道株式會社の如きは御實驗の上今回客車室内防寒用として製造を命ぜられ其他各地より續々御用命に御座候
◎本器は極めて少量の炭火を以て空氣の作用に依り強勢なる温熱を發し永く室内へ置くも火氣にのぼせる憂なし
◎本器に一度炭を投入せば更に手數を要せず十五時間以内同樣の温度を保つ故客室事務室は勿論寢室又は寒氣を厭ふ病室に用て至極妙也
◎一個代五圓四十錢荷造り費一個金四十錢
◎本器明細書御申込次第送呈す
◎東京大阪市内は御報次第持參す
(注意)本器には專賣特許及空氣暖爐の標記あり

發賣元　東京市淺草區諏訪町一番地　(電話浪花八百參拾壹番)　小原商店
大阪市南區安堂寺町四丁目御堂筋北入る　小原商店

恭賀新年
專賣特許竈



製造發賣元　日本橋區蛎殻町二丁目　名和商店
神田區松永町十八　和泉橋通　名和支店

登錄商標
佛國大博覽會賞牌受領
博覽會賜賞牌
東京、東兩國横網町
今古改正　寶香　齒磨
伊勢屋吉次郎謹製

恭賀新年本年も不相變御用向奉願候

◎名題洗粉は皆々樣の御引立に依り益々盛大に相成難有仕合に奉存候然るに近來諸方に名題洗粉の摸造品澤山顯はれ候に付弊舗製造品には袋の裏に芝居櫓形の登錄商標を相印し御座候間何卒御求の節は篤と御熟覽の上多少に不拘御用向の程偏に奉希上候也

壹袋壹錢
假罐詰五錢

東京淺草區黑船町　梅素亭謹製

(電話浪花二千二百參拾四番)

大日本女學會發行　東京麴町區下三番町二十七

をんな

毎月一回十五日發行定價金十五錢全國無遞送料

本誌の特色

◎本誌の目的は、婦人をして常識に富み、世態に通じ、以て其本分を完うせしめんことを期するに在り。されば、其所說、新に流れず、舊に泥まず、一宗一派に偏らず、而も世に阿りて、徒らに俗流の歡心を迎へず。◎本誌は、輕佻浮華の弊風を避けんが爲に、表紙口繪など、不要の裝飾を省きて、專ら記事の精選を努む。◎本誌に收錄する所は、普通の婦人雜誌に掲載する、文學上家政上の記事のみに止めずして、一科學の大意を掲げて、學理の概念を得しめ、一和漢洋名著の綱要を掲げて、諸書の涉獵に便せしめ、一法制理財等の事を平易にものして、世態に通ぜしむ。◎本誌は、野卑なる語及び劣等なる戀愛文字を避け、下品なる廣告を掲げず。◎本誌は、勤儉貯蓄の美風を奬勵せん爲に、毎號慈善貯金切手を附して、其模範を示す。◎本誌讀者は、みやび會員となり、其歌・文を本會に送付して、名家の批評添削を受くることを待。

大賣捌
神田表神保町三　東京堂
京橋銀座四ノ一　東海堂
神田一橋通町七　有斐閣
京橋鎗屋町六一三　北隆館

水原產科婦人科病院
○所在神田區猿樂町十二番地(電話本局千八百九番)○外來診察午前中○入院隨時診察○同院に私立產婆學校の設備あり

婦人ふるちの藥

定價一貼五錢三貼十四錢五貼廿三錢七貼三十二錢
一此藥劑は婦人血の道一切の藥にして淸血を補ひ古血をめぐらすとかんようにして少しも脾胃にさわることなく血を下すにてはなく血をみちびき通ずる藥なり第一月々めぐり少き婦人はたッぷりと見るなり數年古血滯りある婦人は其のふるちのかたまり殘らずつうずるなり◎○南まけづつち目まひによし○ふるちとゝこほり○たがち○しらち○手あしゝびれ○○血しやく○ひゑるときさしこみいたむに功あり○○むねこしいたみ○つぎむしによし○さんごあとはらのいたみはいかほどつよきいたみにても一ト包にて功あり○さんごわるちのとどこほりに用ひて功あり○猶能書にくわしくしるす

東京市本所區東兩國横網町一丁目
本家製藥所
齒磨店　伊勢吉本店
(電話浪花二七五八)

明治三十六年一月一日發行(毎月十日廿五日二回)
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　大日本女學會内

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

IMPERIAL LIBRARY 帝國圖書館

明治三十六年一月一日發行（毎月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

明治三十五年十二月九日愛國婦人會評議員總會寫眞
（氏名本紙に對照すべし）

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 大日本女學會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN